

令和3年度 学校評価アンケート結果、分析・考察と改善方策

上島町立弓削中学校

学校の教育目標は『知・徳・体の調和のとれた生徒の育成』です。

ランドデザインに基づいて、項目を起こしています。

結果：【4＝あてはまる 3＝おおむねあてはまる 2＝どちらかといえばあてはまらない 1＝あてはまらない】

評価：A＝対象の80%以上が4または3 B＝対象の70%以上が4または3 C＝対象の60%以上が4または3 D＝対象の60%未満が4または3

番	対象	評価指標	アンケート結果 (%)				評価	番	評価の分析・考察	今後の改善方策
			4	3	2	1				
1	教職員	「知・徳・体の調和のとれた生徒の育成」の達成に向けて具体的に努力している。	50	30	20	0	A	1	学校の教育方針におおむね理解を示していただいている。学校行事等においては生徒が生き生きと活動する姿が評価されているように思われる。	3つの柱のうち、今年度も確かな学力を育てることがまだまだ不十分である。来年度もいろいろな手立てを考えてきたが、今後はさらにその点に重点を置いた取組を考えていきたい。
	生徒	「学校は、『確かな学力・豊かな心・健やかな体を育てる』ために努力している。」と思います。	32	60	8	0	A			
	保護者	「学校は、『確かな学力・豊かな心・健やかな体を育てる』ために努力している。」と思います。	22	72	6	0	A			
2	教職員	心身ともに元気な生徒を育成するために、教育活動に工夫・改善を行っている。	50	40	10	0	A	2	保護者の意識が昨年度より5%改善されている。コロナ禍で様々な制限を受けつつも具体的な対策を取りながら実施した運動会、文化祭やろっこ大会などの行事で、生徒が活発に活動する姿見ていただけたためであると思われる。	全教職員で意見を出し合って、今後の状況に柔軟に対応し、生徒が生き生きと充実した活動ができる場面を増やしていきたい。
	生徒	元気に生き生きと学校生活を送っています。	43	53	4	0	A			
	保護者	「お子さんは、元気に生き生きと学校生活を送っている。」と思いますか。	35	57	6	2	A			
3	教職員	基礎・基本の充実を図り、確かな学力の定着・向上に向けて積極的に取り組んでいる。	80	20	0	0	A	3	昨年度も保護者の評価が低い。教職員・生徒と保護者の間の意識に差がある。生徒は学習したことが身に付いていると感じていても、家庭での学習に物足りなさがあり、保護者から共感を得られていない。	今後も、授業での実態把握のもと、朝ドリルや学習タイム、1人1台端末の活用、学習相談などを通して、個に応じた指導の充実に努めていきたい。
	生徒	学習したことの基礎・基本が身に付いています。	26	60	13	0	A			
	保護者	「お子さんは、学習したことの基礎・基本が身に付いている。」と思いますか。	12	57	27	4	C			
4	教職員	「対話的な学び」に係る授業改善の視点に立った授業づくりに取り組んでいる。	30	60	10	0	A	4	コロナ禍で授業を見る機会が少なく、保護者の評価が昨年度より5%低い。教師の指導についてはICT機器の活用を含め、一定の評価が得られている。	継続して研究授業、自主研修等を通して授業力の向上を図りたい。合わせてオンライン授業ができる準備もしていきたい。
	生徒	先生たちは、わかりやすく教えてくれています。	59	40	1	0	A			
	保護者	「先生は、お子さんにとって分かりやすい授業づくりに努めている。」と思いますか。	12	72	12	4	A			
5	教職員	効果的な宿題の提示や自主学習の在り方など、具体的な指導に努めている。	40	60	0	0	A	5	昨年度同様、教員と生徒、保護者の意識に差がある。教員としては家庭学習に力を入れてきたつもりであるが、まだまだ生徒や家庭には浸透していない。本校の課題である。	引き続き自主ノートの活用方法や授業ノートの見直しなど基本的なところから地道に取り組む。特に1人1台端末の持ち帰りやインターネット学習支援サイト「みんなの学習クラブ」の活用を積極的に推進していく。
	生徒	家で宿題や自主学習、読書などを合わせて設定時間(1年1.5 2年2.0 3年2.5)以上しています。	25	41	17	17	C			
	保護者	「お子さんは、家で宿題や自主学習、読書などを合わせて設定時間以上している。」と思いますか。	10	42	13	35	D			
6	教職員	学校行事や体験的な活動は、創意工夫・改善するように努めている。	60	30	10	0	A	6	コロナ禍、制限を受けつつも、昨年度の反省を生かし、実施方法を工夫して昨年度以上の体験的な活動につながれたことはよかった。	様々な行事において、企画の段階で生徒からの提案も聞き、計画を立てていきたい。また、時期の変更等ははやめに知らせ、理解を得たい。
	生徒	学校行事や体験的な活動は、充実しています。	60	34	6	0	A			
	保護者	「学校は、学校行事や体験的な活動の充実に向けて努力している。」と思いますか。	33	60	5	2	A			
7	教職員	道徳や学級活動、人権集会などの充実に努め、自他の生命尊重や人権意識の高揚を図っている。	90	10	0	0	A	7	本年度は長島愛生園を訪問することができ、差別の現実に学ぶ機会が持てたことは大きかった。文化祭での発表等、その後の活動にも大きな影響を与えた。また、人権参観日での人権劇の上演も効果的であった。	道徳教育を充実し、道徳の授業だけでなく、地域での体験活動や地域の方々や保護者が参加する活動において、生徒が家族や地域の方々と話し合い考える時間を増やしていくことも必要である。
	生徒	自他の命の大切さを考え、いじめや差別のない学校生活を送っています。	94	6	0	0	A			
	保護者	「お子さんは、自他の命の大切さを考え、いじめや差別をしない行動をとっている。」と思いますか。	63	37	0	0	A			
8	教職員	全校運動(弓削中タイム)や部活動が、生徒の健全育成に向けた活動になるよう取り組んでいる。	40	60	0	0	A	8	弓削中タイムはあまり実施することができなかったが、みんなしっかり活動できていた。(持久走大会、駅伝大会に向け、可能な取組はできた。)	新体力テストの結果から本校の課題を洗い出し、弓削中タイムのメニューに反映させるようにすれば、より充実した活動になると思われる。
	生徒	全校運動(弓削中タイム)や部活動に一生懸命取り組んでいます。	64	28	6	2	A			
	保護者	「学校の部活動が、生徒の健全育成の手立ての一つとして活動できている。」と思いますか。	40	55	5	0	A			
9	教職員	基本的な生活習慣の育成に向けて、適切に指導している。	40	60	0	0	A	9	教職員・生徒・保護者とも昨年度と同様である。基本的な生活習慣が定着している生徒が増えている。	引き続き就寝時間やスマホに関する実態調査から改善策を考え、保護者に啓発していく。また、PTA主催の講演なども考えていきたい。
	生徒	基本的な生活習慣が身に付いています。	38	49	11	2	A			
	保護者	「お子さんは、基本的な生活習慣が身に付いている。」と思いますか。	28	53	13	8	B			
10	教職員	進んで気持ちのよいあいさつができるよう、適切に指導している。	10	80	10	0	A	10	生徒のあいさつに対する意識は昨年度よりさらに高くなっている。あいさつに加え、会釈ができる生徒も増えてきている。	朝のあいさつ運動や部活動などにおいて「気持ちのよいあいさつ」をすることの大切さを根気強く言い続け実践できるようにさせていきたい。形式的なあいさつではなく、時、場、相手に応じたあいさつができるよう教育活動の中で一緒に学ばせたい。
	生徒	気持ちのよいあいさつが進んでできています。	53	42	5	0	A			
	保護者	「お子さんは、気持ちのよいあいさつが進んでできています。」と思いますか。	30	60	10	0	A			
11	教職員	交通ルールやマナーを守って安全に登下校できるよう、適切にと指導している。	60	40	0	0	A	11	道路を横断する際の左右確認や、ヘルメット着用など交通ルールの遵守はほとんどの生徒が普段からできており、交通安全に対する意識が高い。	登校指導や交通安全教室においてはもちろんであるが、危険な場面に遭遇したり見かけた場合は、そのつど指導をしていくことが大切である。地域の教育力も生かしたい。
	生徒	交通ルールやマナーを守って安全に登下校できています。	85	15	0	0	A			
	保護者	「中学生は、交通ルールやマナーを守って安全に登下校できている。」と思いますか。	63	37	0	0	A			
12	教職員	アンケートや教育相談などを実施し、全教職員が協力して、問題の早期発見・早期対応に努めている。	30	70	0	0	A	12	生徒の評価は昨年とほぼ同じであるが、保護者の評価が3%向上していることを考えると、学校に対する信頼は高くなっている。	定期的な教育相談だけでなく、いつでも相談できる体制や雰囲気づくりをしていく。また、小さな問題でも電話連絡や家庭訪問等を行い家庭との連携を密にし、教員同士の情報交換も行う。
	生徒	困ったことがあったら、家の人や先生に相談しています。	34	45	13	8	B			
	保護者	「学校は、お子さんのことで相談した場合、誠意をもって対応している。」と思いますか。	28	65	5	2	A			
13	教職員	自ら清掃活動を一生懸命行い、生徒への指導もきちんと行っている。	60	30	10	0	A	13	一人一人が一生懸命行うことができています。生徒の清掃に対する意識は、昨年度に比べ大幅に上昇している。	今後も継続して短い時間内でも生徒がさらに真剣に、時間いっぱい進んで取り組むことができる態度を育てていくことが大切である。
	生徒	清掃活動を一生懸命(黙働、皆働、静働)しています。	77	23	0	0	A			
	保護者	「学校は、校庭や校舎などがいつも美しく清掃や整備がされている。」と思いますか。	60	40	0	0	A			
14	教職員	非常時に適切に対応できるような訓練や指導の充実に努めている。	70	30	0	0	A	14	毎学期違った場面を想定した避難訓練や防災教育を実施して、生徒に避難経路や避難方法の定着を行っている。休み時間や予告なしでの実施をすることで課題が見つかった。	避難訓練が「訓練のための訓練」とならないよう、生徒の危機意識を高めることが大切である。合わせて教職員についても同じである。
	生徒	地震(津波)、火事のときや不審者に出会ったときの安全な行動の仕方を知っています。	55	45	0	0	A			
	保護者	「安心して子どもを預けられる安全面に配慮した学校である。」と思いますか。	48	52	0	0	A			
15	教職員	家庭や地域との連携を図るための手段を講じ、積極的に行っている。	30	60	10	0	A	15	保護者の意識が7%改善された昨年度と、ほぼ同様の結果である。引き続き総合的な学習の時間、ホームページの更新、マチコミ、家庭訪問等を通して積極的に連携していく。(ペーパーレスを推進している。)	今後も継続して学校・保護者・地域が一体となった学校教育の機会を充実させる。学校便りやHP、マチコミ等を有効活用し、生徒の様子をタイムリーに発信していくことが大切である。
	生徒	学校からの保護者へのプリントをきちんと渡しています。	60	34	6	0	A			
	保護者	「学校は、家庭との連携を図るための手段を講じ、積極的に行っている。」と思いますか。	30	50	18	2	A			